

11月22日（木） 会場：淡路夢舞台国際会議場

9:30～12:00 瀬戸内海セッション（淡路夢舞台 イベントホール）
21世紀の新たな瀬戸内海環境保全・修復・創造
- 瀬戸内海で何が行われ、何が行われなかったか、今後何をすべきか -

趣 旨

瀬戸内海はその経済的、地理的な条件や遠浅で穏やかな海域の特性等を背景に、特に戦後の高度成長期には産業が沿岸に集積し、多くの浅海部が埋め立てられ、工場排水や生活廃水により、赤潮が頻発した。瀬戸内海は「瀕死の海」と言われた。

このような状況を受けて、瀬戸内海環境保全知事・市長会議を中心とした地域からの働きかけにより、昭和48年7月に瀬戸内海環境保全臨時措置法が制定され、昭和53年6月には瀬戸内海環境保全特別措置法（以下「瀬戸内法」という。）に恒久法化された。

瀬戸内法では、瀬戸内海環境保全基本計画（以下「基本計画」という。）の策定、特定施設の設置の許可制、汚濁負荷量の総量規制、指定物質の削減指導、自然海浜保全地区の指定、埋立て等についての特別の配慮等の特別な措置が規定されている。

こうした瀬戸内法を軸とした各種の施策により、国や関係する地方公共団体、事業者、住民等が連携して環境保全に関する取組みがなされてきた。例えば各セクターの参加によって、「社団法人瀬戸内海環境保全協会」が設立され、環境保全思想の普及啓発にかかる事業も積極的に展開されたこと、域内の学識者、研究者により組織された「瀬戸内海研究会議」の学術・研究交流なども挙げることができる。

しかし、瀬戸内法施行以降においても、港湾整備、都市再開発、廃棄物処分等を目的とした埋立面積は浅海域を中心に年平均400haを上回っている。また、これらの埋立ての多くは都市の地先海域において行われることから、住民が立ち入ることのできない水際線が増え、人が海と触れ合う場の減少（親水機能の低下）につながっている。

このように、瀬戸内法が施行されて四半世紀が経過し、各種施策の実施により、人間活動に起因する環境への負荷の軽減について一定程度の成果が見られるなか、一方で過去の開発等に伴って蓄積された環境への負荷や新たな環境問題への対応など多くの取り組むべき課題が指摘されている。

また、瀬戸内海を取り巻く状況 - 環境保全に対する考え方 - も、当初の水質改善、有害物質対策等の公害対策中心のものから、環境基本計画等に見られるように、生物多様性の保全、健全な水循環の回復・確保、物質循環の促進、豊かな自然との触れ合いの確保など幅広い環境保全を目指すものに変化してきている。

そのため、現在「瀬戸内海」は、生活、産業等を含む人間と自然との共生の場として、海域毎の地理的、自然的、社会経済的な条件を考慮しつつ、今後とも一体的、総合的に保全されていくことが希求されている。

かかる瀬戸内海における環境保全施策については、これまでの施策の結果やその検証を踏まえ、今後いかなる展開を図っていくかは、いつに瀬戸内海だけの課題ではなく、国内外の閉鎖性海域の共通

の課題である。

そこで、かかる瀬戸内海という「場」を通じて研究者、NGO、行政がそれぞれの立場から話題を提供し、全体の中で討議する「瀬戸内海セッション」を開催し、これまでに瀬戸内海で何が行われてきたか、また何が行われなかったのか、他の閉鎖性海域の取り組みとの情報交流を通じ、21世紀においてどうすべきかを検証・提起する。

実施体制

(1) 企画構成

瀬戸内海研究会議 / 瀬戸内海環境保全知事・市長会議 / 社団法人瀬戸内海環境保全協会

(2) 実施・運営

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会

プログラム

・開 会

・コーディネーター：櫻井 正昭

(社)瀬戸内海環境保全協会顧問((財)自然公園美化管理財団専務理事)

・ライター：柳 哲雄

瀬戸内海研究会議企画委員会委員長(九州大学応用力学研究所教授)

・報 告 11名

・全体討議 円卓参加者及び一般参加者

・閉 会

会議形式と円卓参加者

(1) 円卓会議方式

- コーディネーターを囲み円卓参加者が報告・討議。一般参加者も随時討議に参加。

(2) 円卓参加者

阿部 悦子

環瀬戸内海会議代表(愛媛県議会議員)

井上 正治

北九州市環境局環境保全部長

宇塚 公一

国土交通省都市・地域整備局下水道部流域管理官

岡市 友利

瀬戸内海研究会議会長(香川大学名誉教授)

金子 信義

山口県漁業協同組合連合会専務理事

薦田 直紀

(財)広島県環境保健協会地域活動支援センター長

ジェーン・ニシダ

米国・メリーランド州環境省長官

柴垣 泰介

環境省環境管理局水環境部水環境管理課閉鎖性海域対策室長

白幡 洋三郎

国際日本文化研究センター教授

平山 孝信

関西電力(株)環境技術グループチーフマネージャー部長

福田 幸司

国土交通省近畿地方整備局港湾空港部長

11
月
22
日
(木)

13:30～15:30 総括の全体会議「会議をふりかえって：EMECSの過去、現在そして未来」
(淡路夢舞台 メインホール)

プログラム

- コーディネーター -

渡辺 正孝 独立行政法人国立環境研究所水圏環境研究領域長

(第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会運営委員会副委員長)

ウエイン・ベル 米国・ワシントン大学環境社会センター所長・教授

(第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会プログラム部会副部長)

基調報告

テーマ：エメックス活動がこれまでに果たしてきた役割と21世紀における活動戦略

報告者：ウエイン・ベル 米国ワシントン大学環境社会センター所長

分科会等報告

分科会報告：各ラポター

- ・第1テーマ：柳 哲雄(九州大学応用力学研究所教授)
 - ・第2テーマ：デヴィッド・キャロル(米国・ボルティモア郡環境保護資源管理部長)
 - ・第3テーマ：細川 恭史(国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部長)
 - ・第4テーマ：谷口 文章(甲南大学文学部教授・人間科学科長)
 - ・第5テーマ：イピカ・トランピック(クロアチア国連環境計画優先行動計画/地域活動センター(PAP)所長)
 - ・有明海セッション：田北 徹(長崎大学水産学部教授)
 - ・海洋流出油の環境影響と対策セッション：牧 秀明(独立行政法人国立環境研究所流域環境管理プロジェクト海域環境チーム研究員)
- 特別セッション報告：各ラポター
- ・アジアフォーラム：谷津龍太郎(アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター長)
 - ・NGOフォーラム：小沢 秀造(瀬戸内の環境を守る連絡会事務局長)
 - ・瀬戸内海セッション：柳 哲雄(九州大学応用力学研究所教授)

全体討議

パネリスト：分科会・特別セッション各コーディネーター

- ・第1テーマ：ジャンポール・デュクロトワ(英国・ハル大学教授)
- ・第2テーマ：ベン・ヤンソン(スウェーデン・ストックホルム大学名誉教授)
- ・第3テーマ：エルダール・オーザン(トルコ・中東工科大学教授)
- ・第4テーマ：グローリア・スナイヴェリー(カナダ・ヴィクトリア大学教授)
- ・第5テーマ：トーマス・ショーエンバウム(米国・ジョージア大学教授)
- ・アジアフォーラム：三村 信男
(茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター教授)
- ・NGOフォーラム：東梅 貞義(WWFジャパン 自然保護室)
- ・瀬戸内海セッション：櫻井 正昭((社)瀬戸内海環境保全協会顧問)

神戸・淡路宣言(最終案)報告

とりまとめ

15:45～16:30 閉会式（淡路夢舞台 メインホール）

プログラム

総括及び神戸・淡路宣言の採択

- ・熊本 信夫 運営委員会委員長／プログラム部会部会長
- ・ウエイン・ベル プログラム部会副部会長

- 神戸・淡路宣言の採択 -

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会実行委員会プログラム部に設置された「神戸・淡路宣言起草のための作業グループ」が起草を行い、参加者の意見を聴取し、総括の全体会議で報告承認された最終案の採択を予定

（神戸・淡路宣言作業グループ）

- 委員長 ウエイン・ベル ワシントン大学環境社会センター所長
- 委員 渡辺 正孝 独立行政法人国立環境研究所水圏環境研究領域長
- 委員 ベン・ヤンソン スtockホルム大学名誉教授
- 委員 津野 洋 京都大学環境質制御研究センター長・教授
- 委員 ピアムサック・メナスベータ
チュラロンコン大学教授

ベストポスター賞の表彰

ポスター発表の内、第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会実行委員会プログラム部に設置された「ベストポスター賞選定のための作業グループ 委員長：松田 治（広島大学生物生産学部教授）」が選定した発表に対し、「第5回世界閉鎖性海域環境保全会議」実行委員会会長より次の表彰を行う。

- ベストポスター賞（1名）
- 準ベストポスター賞（2名）
- 奨励賞（若干名）
- 努力賞（若干名）

次期開催地挨拶 プロドプラソップ スワディ タイ国森林省長官

閉会挨拶 井戸 敏三 兵庫県知事

閉会宣言 茅 陽一 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会副委員長（東京大学名誉教授）

16:50～18:30 さよならパーティー（ウェスティンホテル淡路 ステラの間）

アトラクション：三洋電機かけはし連による郷土芸能